

幼児と実習生の応答関係成立促進のための
教育実習支援プログラムの開発
学生による実習記録の分析

松 原 勝 敏

西 浦 和 樹

坪 井 貴 子

**A plan to develop the programs for practice teaching for student
teachers in order to establish human relations with children.**

analyses of the records of the teacher students

Katsutoshi Matsubara

Kazuki Nishiura

Takako Tsuboi

The purpose of this study is to make public the effects of the analyses of the records of teacher students. By this project, we intend to make it easier that student teachers in teacher training course for kindergardens and nursery schools establish good human relations with children in communicating.

The main contents of this article is as follows.

- (1) Analyses of the records of teacher students in communicating with children.
- (2) Analyses of the student teachers' notes of differences between the teachers and student teachers in communicating with children.
- (3) merits and difficulties in using IC-recoder.

key words : program, practice teaching, student teacher, human relation

はじめに

大学冬の時代を迎え，各大学とも学部・学科の改組転換や運営組織の見直し，大学の自己点検・自己評価やファカルティ・ディベロップメントのための諸般の取り組みが行われている。このような一連の動きの中で，教育・指導面での改善は，大学改革・改善において特に大きな位置を占めている。

本学幼児教育学科においては、従来からも個々の教員のレベルや学科全体の取り組みとして、その創設以来30余年にわたり教育実践の成果を蓄積してきた。しかしながら、今日、しばしば指摘されるように、少子化や青少年を取り巻く環境の変化等によって、本学幼児教育学科の入学生についても何らかの影響が見られ、彼らに対する教育・指導面においても、従来通りの指導が通用しなくなっている事は否定し得ない。このような状況において、本学幼児教育学科は、教育の受益者たる学生たちに対して教育責任を果たすと同時に、本学幼児教育学科に求められる社会的使命を全うするための具体策を検討している。

そこで、具体策推進の1つとして、平成12年度、日本私立学校振興・共済事業団による、私立大学等経常費補助金特別補助「特色ある教育研究の推進」に係り、補助金を得て、本稿題目にあるように「幼児と実習生の応答関係成立促進のための教育実習支援プログラムの開発」に取り組むこととなった。

ところで、本研究の着想の背景、ねらいと特色、研究計画及び予測される結果については、本学紀要第36号に記載した。今回の報告は、実際に実習生にICレコーダーを持たせて、各自の子どもとの交流場面を記録した内容をまとめたものである。本稿においては、これらの分析を通して、本プロジェクトの有効性を確認するとともに改善点を見いだすことを目的とする。

1．実施方法と実施期間

(1) 実施方法

2001年に本学に入学した幼児教育学科1年生14名の協力を得て実験を行った。ただ、本研究に使用できるICレコーダーの数や協力してくれる学生の負担等を考慮する必要があった。そこで、本学が実習でお世話になっている高松幼稚園および高松東幼稚園で観察実習を行う学生をそれぞれの園から7名ずつ選び、隔週で子どもとの応答の内容を記録し、各自で考察するという方法を採用した。

(2) 実施期間

2001年10月～2002年5月末

実施期間は、観察実習が開始される1年生の後期から本実習開始までの期間である。

2．以下の部分では，学生が提出した考察結果を分析し，いくつかの観点ごとに代表的な考察の内容を記していきたい。

(1) 子どもとの応答関係での気づき

この部分では，学生自らがICレコーダーで記録した内容を聞き返して感じたことを分析した結果である。以下，学生自らが子どもとの応答関係の中で気づいたことをまとめてみると，次の7つの観点到分類できると思う。その観点到とは，子どもたちに対して単調な対応しかできていない自分への気づき，子どもの言葉をすぐに理解できない自分への気づき，子どもたちへ一方的に話しかけている自分への気づき，保育者の声かけには，具体性があるてわかりやすいことへの気づき，気がつかなかった子どもの言葉への気づき，子どもたちへの自分の対応に関する反省，観察実習の時間が終わった後に，園での子どもの様子を思い起こすこと，の7点である。

以下，それぞれの分類項目に従って，学生の記録の一部を紹介したい。

子どもたちに対して単調な対応しかできていない自分への気づき

2001年12月4日 高松東幼稚園 3歳児 学生OH

「これ，何？」とか「何しよん？」などと言う言葉がけに対し，子どもが「 」などと答えて終わる会話がなくて，その会話からの展開がないので，もっと，次々と会話ができるようになればいいと思いました。

2001年12月11日 高松幼稚園 5歳児 学生NM

今日は，初めて行ったクラスなので，何をしたいか，何を話したらいいかわからずにとまどってしまうことがたくさんありました。だから，あんまり子どもたちと話すことも少なかったように思う。それから，話をする時に単語だけで話すことが多く，同じ言葉を何回も使っていたのでもっと工夫して話せたらいいかなと思った。

2001年12月18日 高松東幼稚園 5歳児 学生A

子どもたちは，私にたくさん話しかけて昨日あったことなど，たくさん話しかけてきているが，そのあいづちが「うん！」「本当！」「よかったね」の繰り返

返しで、素っ気ないことがある。

2001年12月18日 高松東幼稚園 4歳児 学生OG

けんかをして子どもが泣いている時に大丈夫としか声をかけることしかできなかった。

子どもの言葉をすぐに理解できない自分への気づき

2001年11月13日 高松幼稚園 4歳児 学生OK

子どもの言っている言葉が聞き取りにくかったので、何回も「えっ？」という感じで聞き直しているところが多かったように思える。

2001年4月28日 高松東幼稚園 4歳児 学生A

特定の子どもたちとしか会話をすることができていなかった。子どもたちが言っていることがよく聞き取りにくく、何度も聞き返している場面が多かった。

子どもたちへ一方的に話しかけている自分への気づき

2001年10月30日 高松幼稚園 3歳児 学生NA

自分ばかり一方的に話しているように思う。自分は、先生と違って、すごく早口のような気がする。友だちと話すのと同じように話しかけている・・・かな？

友だちから後れをとっている子どもに対して、どういうふうに接して、どういう言葉かけをすれば、その子がやる気を取り戻すのかわからず、少々きつい言葉を言ったかも知れない。

2001年12月11日 高松幼稚園 5歳児 学生OK

かたづけの時、一方的に「かたづけしよう」という呼びかけになっていた。これからは、やわらかい感じで、かたづけの雰囲気がもてるように心がけたいと思う。

子どもたち全体に対応できていない自分への気づき

2001年11月20日 高松東幼稚園 5歳児 学生A

何人も同時に話しかけられた時など、「ちょっと待って」と1人以外の子たちに

会話をするのを待たせる時間が長い。

1対1の場合は、ちゃんとコミュニケーションがとれているけど、同時にたくさんの子どもたちと関わると、1人1人の話や言い分を理解しきれなくて、対応などが曖昧になっている。

2001年12月4日 高松東幼稚園 3歳児 学生S

たくさん子どもから話しかけられたりしていることに気がつきました。

2002年5月14日 高松東幼稚園 4歳児 学生A

たくさん子どもたちから同時に話しかけられた時や、遊びに誘われた時に、みんなになかなか気が配れず、一部の子どもたちとしかコミュニケーションをとることができていなかった。

気がつかなかった子どもの言葉への気づき

2001年12月11日 高松幼稚園 4歳児 学生M

今回から4歳児になり、3歳児と違ってだいぶ言葉がわかるようになってきたし、子どもたちが難しい言葉をたまに使っていることに気づきました。

2001年12月18日 高松東幼稚園 3歳児 学生F

今日は、1人でお部屋に入っていくと、「何で今日は1人なん?」「順番に来るん?」などと何人かの子どもに言われました。子どもと話していると、「何で?」「どうして?」という言葉が多く出てくると思いました。

子どもたちへの自分の対応に関する反省

2001年11月13日 高松幼稚園 3歳児 学生M

子どもたちの勢いに押しつぶされていた感じ……。子どもたちが何を言っているのかわからなかった時、話がかみ合っていないような時があった。

2001年10月30日 高松幼稚園 3歳児 学生NA

友だちと話すのと同じように話しかけている……。かな?

友だちから後れをとっている子どもに対して、どういうふうに接して、どういう言葉かけをすれば、その子がやる気を取り戻すのかわからず、少々きつい言葉を言ったかも知れない。

2001年12月11日 高松幼稚園 4歳児 学生K

いつも、友だちと話しているように子どもたちと話していることが多いと思う。

2001年4月30日 高松東幼稚園 3歳児 学生OG

今日は、参観の日だったのであさからずっと子どもが泣いていて、絵本を読んでいた。最初は泣いていたけど呼んで声かけをすると笑いはじめ、終わるとまた泣き始める子や3階に行こうとして走り出す子を止めるのも大変でした。

その子に話をしようとして声をかけ一緒に座ったけど、「お母さんが下に来るまで、一緒にいようね」と声をかけても、すぐ立って走り出してしまっていて大変でした。でも、それは、私の言葉かけが悪かったのかなと思いました。もう少し、気持ちが安定してお母さんを一緒に待てるような声かけをしなければいけなかったと思いました。

観察実習の時間が終わった後に、園での子どもの様子を思い起こすこと。

2001年12月4日 高松東幼稚園 4歳児 学生OG

子どもと一緒に遊んでいるだけで、言葉かけがうまくできなかったと思う。それに、途中からおじいさんやおばあさんとのふれあいを観察したので、最初の自由遊びくらいしか関われなかった。今日は、園で流行している(?)じゃんけんのやり方も録れて、後から聞くとおもしろかった。

2002年5月14日 高松幼稚園 5歳児 学生W

運動会の練習で玉入れをする時、最後まであきらめずにあまり入っていない方を応援したり入ってる方を「すごいすごい」と応援したりする。

- (2) 自分自身の子どもへの対応を現場の保育者による対応と比較した上での気づき
観察実習や本実習に行くと、学生たちは、「現場の先生はやっぱりすごい」とよく

発言する。そこには、子どもたちに十分に対応しきれない自分に対する無力感や自信のなさ、あるいは、保育者に対する尊敬の気持ちや保育者を目標として設定する意欲が表れているのかもしれない。

以下の部分では、学生たちが観察実習の間に、自分の子どもへのかかわりと現場の保育者の子どもへの関わりとを比較して感じたことを観点別に分類したものである。その結果、保育者は、子どもをしっかりと受け止めていることへの気づき、保育者は、子どもに気づいてもらえる言葉がけをしていることへの気づき、保育者は、子どもの意欲を引き出す声かけをしていることへの気づき、保育者の声かけには、具体性があるってわかりやすいことへの気づき、保育者に比べて、子どもに関われない自分への気づき、保育者と違って、きちんとした言葉遣いができていない自分への気づき、といった6つの観点を見て取ることができた。

以下の部分では、これらの観点について、学生が感じたことをまとめておきたい。

保育者は、子どもをしっかりと受け止めていることへの気づき

2001年12月11日 高松幼稚園 4歳児 学生K

女の子が泣いているときに、その子に言葉をかけてもなかなかうまく言葉がけができなかったが、保育者は、その子にどうしたのか聞いて、その子をなぐさめるような言い方をし、泣いている子どもに対して、大きく受け止めていたように思う。

2002年1月8日 高松幼稚園 3歳児 学生NM

先生は、子どもをしかる時に、理由を子どもからきちんと聞いて、最後はやさしくほめるように話しかけていた。

2002年4月30日 高松東幼稚園 3歳児 学生OG

先生は、子どもにわかりやすく話しかけるが、私は説明するような声かけしかできなかった。泣いている子どもに関わる時も、先生は声をかけて、笑えるようになる声かけをしていたが、私は絵本を読んで気をそらすことしかできなかったんだなと思いました。

2002年5月14日 高松東幼稚園 4歳児 学生A

活動にみんなと一緒に参加しない子が1人いて、「みんなと一緒にしないの?」「みんなとやってみよう?」と何度も言葉がけたが、その子は「イヤ!!」と言うだけで私の問いかけを聞き入れてくれなかった。しかし、先生が、「何でみんなとやりたくないの?」と何度も問いかけて、言葉がけをすると、その子は、みんなと一緒に活動に加わった。今思うと、先生は、その子が何故したくないのかという理由を「何で? どうして?」と問いかけていたけれど、私は、やりたくない理由もきかず、「やってみよう」とそれだけだったのがいけなかったのではないかと思った。

保育者は、子どもに気づいてもらえる言葉がけをしていることへの気づき

2001年12月4日 高松東幼稚園 5歳児 学生A

片づけを行う時、「早く片づけしよう」や「もう片づけの時間ですよ」など、私は呼びかけをしたけれど子どもたちはなかなか片づけを始めませんでした。しかし、先生が、「今は、何をする時間ですか?」と子どもたちに尋ねると、子どもたちは自分から時計を見て、片づけをしなくてはいけないことに気づき、片づけを始めていました。言葉がけの一言一言の微妙な表現の違いで、子どもに伝わりやすかったり、伝わりにくかったりするのだと思いました。

2002年4月30日 高松東幼稚園 5歳児 学生F

子どもたちが騒がしい時、私はその子の側に行き、「前向こうね」と少し声をかけるだけだったけど、先生は、「聞いているお友達が、話してるから、前で話してる子の声が聞こえないよ」と、きちんと人の話を聞こうという風に声かけをしていた。

保育者は、子どもの意欲を引き出す声かけをしていることへの気づき

2001年11月20日 高松東幼稚園 3歳児 学生F

子どもが絵を描いたりした時、私のところに見せに来た時、私は「うわぁ! 上手やねえ!」とほめるだけだったけど、先生は「上手やねえ、でも、こうするともっといいよ」と、ほめてから、より良くなるように声をかけていた。

2001年12月11日 高松幼稚園 4歳児 学生W

お片づけの時、私は子どもたちに「お片づけしよー」と声をかけていた。しかし、保育者は、私みたいに単にそう言うのではなく「誰が一番早くお片づけできるかな？」などと言っていた。そうすることで、なかなかお片づけしない子でも片づけようとしていた。

2001年12月18日 高松東幼稚園 5歳児 学生A

子どもたちが絵を描く時でも、どう描けばいいかわからないと聞かれ、逆に細かくアドバイスすぎ、私が言うとおりの絵になってしまった。先生の言葉がけをみると、「あの時、みんな何してた？」などその状態がすぐに思いうかぶような言葉がけ、イメージが広がりやすいような言葉がけをしていた。

2002年1月8日 高松幼稚園 3歳児 学生OK

かたづけをする時でも、「きれいにかたづけられるようになったね」などと、ほめながら、子どもがかたづけに興味を引けるような声かけが、先生にはできていたと思う。

私も、ただ「～しよう」だけではなく、その行動を促すことができるような声かけをしていきたいと思う。

2002年5月24日 高松幼稚園 学生M

保育者は、常に、子どもに対してはげましの言葉をかけているように感じた。

保育者の声かけには、具体性があるってわかりやすいことへの気づき

2001年11月20日 高松東幼稚園 5歳児 学生A

何時になったら次の作業に移るのか聞かれ、「15分まで！」と答えると「15分てどこにあるん？」と言われた。先生の対応を見てみると「長い針が3のところまで！」と子どもたちがわかりやすいように言葉がけをしていた。自分はもっと子どもたちがわかりやすいような言葉を選んで会話をしなくてはいけないと改めて感じた。

2002年4月30日 高松東幼稚園 4歳児 学生A

自由遊びの時間、今日は、子どもたちと折り紙遊びをしました。そこで、いろいろな折り方を私は説明をして教えたのですが、あまり子どもたちにうまく伝わっていないようでした。先生が折り方を説明しているのを聞いていると、ゆっくり子どもたちがわかりやすい言葉遣いであると思った。

2002年5月21日 高松幼稚園 3歳児 学生OK

先生は、運動会の練習の時、列が乱れたりすると「ちゃんとならんで」ではなく「ちゃん(くん)並ぼうね」と、名前をちゃんと呼んで、自分のことだと分からせるような感じで声かけしている。

保育者に比べて、子どもに関われない自分への気づき

2001年11月13日 高松幼稚園 3歳児 学生W

保育者は、子どもとの会話が続けていたが、私と子どもが話すときたくさん話してくれる子もいれば、あまり話さない子もいた。保育者と子どもたちは、毎日過ごしている分大きな信頼関係ができているように思った。

2001年11月13日 高松幼稚園 3歳児 学生M

子どもの言ったことの繰り返しのようになってしまう、後に話が續かない。まだ何を言っているのかよくわからないからとまどう。保育者は、とにかく私と違って会話が續いている。

2001年12月4日 高松東幼稚園 5歳児 学生H

例えば「そうなんやー」、「本当に」という言葉がいつも多いです。先生は、その後言葉が続きますが、私の場合、何を言っているのか分からず終わってしまいます。

2001年12月11日 高松幼稚園 4歳児 学生M

私はまだ積極的に話しかけることができません。子どもに伝わらない言葉があったらどうしようと思ってしまう。でも3歳児と違い4歳児は難しい言葉も使うこと

がわかったので、次からは積極的になれそうです。工作をした時に、子どもの作った物に私は「キレイだね、カワイイね」などと言っていたが、先生は、男の子には「カッコイイねえ」、女の子には「ステキだねえ」とほめていて、その後も、その作品について会話が續いていて、私は一言で終わってしまう。

2001年12月11日 高松幼稚園 5歳児 学生NM

先生は、子どもたちに話す時に「です」「ます」とかていねいな言葉を使うけれど、私は、単語で話していることが多く、注意する時もきちんとできていなかった。

保育者と違って、きちんとした言葉遣いができていない自分への気づき

2001年10月30日 高松幼稚園 3歳児 学生NA

自分のしゃべり方は、かわいげがなく、早口である。

2001年11月13日 高松幼稚園 4歳児 学生OK

私は、日常茶飯事に使っているような友達に使うような言葉遣いをしていた。でも、先生は、子どもたちに注意する時でも、「～しましょうね」などと、文末をやわらかい感じで、きちんとした言葉遣いをしていた。

2001年12月18日 高松東幼稚園 3歳児 学生OH

もう少し、声の大きさや速さなどを変え、感情が伝わるようにすれば、良かったです。

2002年5月21日 高松幼稚園 5歳児 学生K

私はよく友達と話をするように子どもたちに話をしてしまうことがよくある。だから、もっと保育者らしい言葉を使って話せるようにしていきたい。

2002年5月21日 高松東幼稚園 5歳児 学生OH

保育者の言葉がけは、きちんと子どもに教えるという感じでしたが、私の言葉がけでは、少し友達感覚のような感じでした。あと、私の言葉がけでは、すごく方言が混じっているように感じました。

3．学生によるICレコーダーを使用した実習記録の作成と使用に関する感想

この部分では、学生が実際にICレコーダーを利用して子どもたちとの交流を記録することを通して自らの子どもたちへの関わりを分析するに当たって感じた利便性や不都合をまとめてみた。

学生は、観察参加の間、子どもたちへの対応に精一杯の状態で、子どもたちに対する1つ1つの対応をいちいち記憶してはおけないし、間髪を入れずに子どもたちに働きかけや対応をしていくなかで、ただあっという間に時間が過ぎてしまったという状態にあった学生も多かったようである。

それゆえに、後で音声のみではあっても、子どもたちとの関わりの実態を客観的に振り返る助けとなったことは間違いのないであろう。

ただ、ICレコーダーの操作に若干のとまどいを有する学生もいて、十分なオリエンテーションと扱い方の練習が必要かも知れない。なお、ICレコーダーの録音ボタンは、他のボタンと区別できるように凹ボタンとなっているが、そのくぼみを指で触れても感じ取ることができないという学生が少なからず存在したことは驚きであった。

以下の部分では、使用に関する学生の感想を分類してまとめている。

自分がどのように子どもたちに関わっていたのかを客観的に振り返る助けとなる。

- ・家に帰ってから聞けるので、自分がどんなふうに、子どもに言葉がけをしているのか、後で聞けて良かった。
- ・録音すると何回でも聞き直すことができるので、自分の子どもへの声かけを反省することができる。
- ・あとから振り返ってみることができるので、あの時の言葉かけはダメだったとか、良かったんだと反省できる。
- ・後で聞き返して、自分が子どもたちにどのような言葉がけで話しているのかを知ることができた。
- ・「こんな時はどういったか」などあとから聞き、考えることができるからいいと思った。
- ・聞き返して、どのような対処をとれば良かったかなど後で考えることができた。
- ・自分の働きかけなどを反省することができた。
- ・保育中に気づけなかったことを気づくことができる。

- ・子どもに言葉がけが少ないように感じた。
- ・子どもに話しかけることが少ないことに気づいた。（その分、実習で積極的になるよう心がけられた）。

気づいていなかった子どもの言葉の理解

- ・子どもがどんな会話をしているのかを、後でゆっくり聞けたので良かった。
- ・聞き取れなかった子どもの言葉を聞くことができる。
- ・子どもたちの小さなつぶやきなど、その時は聞き取れなかったが、何が言いたかったのか、録音を後で聞いてわかった。
- ・レコーダーを使うことにより、普段気づかない会話の中での子どもの表現や言葉を知ることができた。
- ・自分が聞けていなかった子どもの声を知ることができた。
- ・聞き取れなかった言葉を後から気づくことができた。

保育者と自分の子どもへの関わり方の比較

- ・先生と自分の子どもたちへの働きかけの違いなどに気づき、勉強になった。
- ・子どもたちのいろんな場においての、保育者の対応の仕方を見直せ、ためになる。
- ・自分と先生の声かけの違いがよくわかる。

レコーダーを持つことによる、言葉がけの意識化

- ・気にしてしまっ、言葉がけや会話の中でもうまくいかなかったこともあるが、気にしていたおかげできちんとした言葉を使えたり、丁寧に子どもと接することができた時もあった。
- ・気にすることによって、きちんとした言葉をかけることができた。

レコーダーを使用して記録するにあたっての困難性

- ・録音のスイッチを押すときに、子どもたちが近くにいて、なかなか押せなくて、自分がいいなと思った会話を録ることができなかった。
- ・とろうとしてボタンをポケットの中で手探りで探していると、ボタンに集中してしまい、その間に子どもとの会話が終わってしまうときがあった。

- ・どの場面を録ればいいのかわからなかった。
- ・押すタイミングがわからなかった。
- ・押すタイミングが難しかった。
- ・録音されていると思うと子どもたちに自然に接することができなかった。
- ・録音するのは、子どもたちと関わる時に素直に言葉をかけられなかったし、言葉を選んでいっているうちにやりとりがおわってしまっていた。
- ・レコーダーをポケットに入れたまま子どもと接するのは、動きにくかった。
- ・ボタンを押すのが面倒だった。
- ・ボタンが小さいので押すところをまちがえて録音されていないということがたびたびあった。
- ・操作方法が難しかった。
- ・子どもたちに見つからないようにするのが大変。
- ・子どもがレコーダーのことを「何これ？」と聞いてきて困った。

まとめにかえて

以上が、幼児と実習生の応答関係成立促進のための教育実習支援プログラムの開発のために、実際に行った試行の結果である。紙数の関係もあり、今回は、あくまでおおざっぱな分析しか掲載することはできなかった点をお許しいただきたい。

なお、本稿は、経過報告であるので、本学紀要その他学会誌を通じて、広く研究の意義を今後とも公開していきたい。

松原勝敏 高松短期大学助教授

西浦和樹 高松短期大学講師

坪井貴子 高松短期大学助教授

高 松 大 学 紀 要

第 39 号

平成15年 2 月25日 印刷

平成15年 2 月28日 発行

編集発行

高 松 大 学
高 松 短 期 大 学

〒761-0194 高松市春日町960番地

TEL (087) 841 - 3255

FAX (087) 841 - 3064